



小森淳子

こもり じゅんこ / 1965年岐阜県生まれ。脳性まひ当事者。二児を育てながら講演・執筆活動。子育て終了後大学院へ。現在、岐阜協立大学非常勤講師。絵と言葉と音楽の世界が大好き。

構音障害

私は、自分の障害のなかで、子どもの頃から構音障害がいちばん嫌でした。一生懸命しゃべっていても、相手になかなか伝わらないのは、本当に悲しいことです。わからない時は、「もう一度、言って」と言ってくれば、嫌な気持ちになるどころか、ありがたく思うのですが、最初から「どうせわからないから、聴かない」という態度をされたり、わかっているのに、わかたふりをされたりすると、人として否定された気持ちになります。

新型コロナ禍になり、講演会や学習会の多くがオンラインになりました。構音

障害のある人にとって、オンラインは困難が増します。自分の言葉を聴き取ってもらえない時、聴き取れない相手もこちらもお互いに気を遣い合う時間になってしまうと思います。対面であれば、お互いの一生懸命さを共有して、その時間が大切なものを感じられるのですが、また、話し方というものは、その人の人となりや能力に直結させられてしまいがちです。魅力的な話し方をする人は素敵な人に見えますし、そんなにたいした内容でなくても、話し方が上手だと、なか素晴らしいことを言っているように聴こえてきます。話し方だけがクローズアップされるオンラインでは、私たち構音障害のある人間は、その格差に打ちのめされてしまいます。

しかし、構音障害のある人たちの語りに必死で耳を傾ける雰囲気は、対話を深める鍵になると、私は思います。なぜなら、時間の流れが似ているからです。人は深く思考して語る時、流暢ではいられませんが、一語一語をお互いに自分の頭で考えながら、確認し合うよう聴き合い、そこに時間を費やすことを大切にできる場なら、自然に対話を深めていけるような気がするのです。



どうしよう
ひどいこと
言ってしまった
ありがとう
ごめんなさい
って……

母親失格！
私、子育てに
向いてない

子どもを育てるってそんなに
簡単なことではないよ
ありがとう生まれたことは
宇宙の奇跡だよ

僕たちは
健康者を
育てるために
子どもを産んだ
のではない……
命を育てるため
だよ

他人がうらやましく
思うこともあるよ
いろんな日があるよ
人はみんな
不完全だよ

療育センター懇談会にて

わかるよ
いっぱい
いっぱい
なる日って
あるよね
とにかく一人で
抱えないこと

障害は
ブラック
なんかじゃ
ない
命がある
こんなに頑張っ
てる子どもを
自慢して歩きたい
くらい！
そう思えるように
なっていきよ

ママ〜あのね
ゆかりちゃん
あそんだよ

肢体不自由児は、どこかで医療的にも身体的にも大人に心配をかけていることを感じています。そして、歩けるようになりたいねがいは大きくなります。家族の思いやあせりも複雑です。このお話は実話をもとにしています。この日、お母さんはいっぱい心の心が限界にきてたくさんの言葉を子どもに浴びせてしまったそうです。その後、パパや先輩ママに言葉にすることができ、ひとりぼっちじゃない輪ができていきました。どんな自分も許していい。「だいじょうぶ。ねがいや夢をもつことは大事だよ」「大丈夫。子育て親育ち。みんなできっすり歩もう」

塩見陽子 (元広島市療育センター保育士)

だいじょうぶ大丈夫

第9話
完璧な親なんていないよ

ただいま〜

あかり3歳の頃……

お姉ちゃん人形かすくす

いま遊んでるからダメ！

かしてっ てば！

ダメ！

ママだつて 仕事して疲れてるの！ 自分の時間もないし

ふたりとも！

身体も痛いし ふたりのケンカの 声を聞くと 頭も痛くなるし……

もういいかげんにして！

ママ…… ごめんなさい……

作画 / うじたなおき